

生まれてきてくれて、ありがとう

帆花

ほのか



監督・撮影：國友勇吾 撮影：田崎絵美 編集：秦岳志 整音：川上拓也 音楽：haruka nakamura プロデューサー：島田隆一 製作：JyaJya Films+roa film 配給：JyaJya Films
配給協力・宣伝：Regard 助成：文化庁文化芸術振興費補助金（映画創造活動支援事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会 2021年|日本|72分|DCP|ドキュメンタリー ©JyaJya Films+roa film

文部科学省選定
少年・青年・成人・家庭向き

honoka-film.com

生きているということ。それは



我が子の成長を喜び、愛しむ両親の姿とその日々の営みをみつめ、いのちにふれるドキュメンタリー

生後すぐに「脳死に近い状態」と宣告された帆花ちゃん。母親の理佐さん、父親の秀勝さんと過ごす家族の時間にカメラは寄り添う。常に見守りが必要な帆花ちゃんとの生活は誰にでもできることではない。でも、理佐さんと秀勝さんの二人にとってはあたり前で、普通のこと。いろんな場所に出かけていき、絵本を読み聞かせ、お風呂に入れ、吸引をする…ありふれた親子の日常の中で積み重なり、育まれていくもの。動かなくても、言葉を発しなくても、ふれあうことで通じあい、満ちていくもの。帆花ちゃんを愛しむ両親の姿から伝わる、我が子と一緒にいられる幸せ。

そんな家族のかけがえのない日々の、生きる喜びと生命の営みを見出したのは、今作が初監督作品となる國友勇吾。プロデューサーを『春を告げる町』の監督である島田隆一が務め、編集を『ニッポン国VS泉南石綿村』『東京クルド』などの秦岳志、整音を『台湾萬歳』『オキナワ サントス』などの川上拓也が手掛けるなど、現代ドキュメンタリーの精鋭陣がスタッフとして参加している。帆花ちゃんの手の柔らかさとぬくもりに、生を実感して心が震えたという國友監督が紡ぎ出す、いま、この社会に私たちとともに在る「いのち」の物語。



@honoka_film

fb.com/honoka.film

honoka-film.com

〈京都〉 2/25 (金) より

國友勇吾監督来場予定
詳細は公式サイトまで

京都駅八条口より徒歩15分 | 近鉄・東寺駅西へ1分
京都みなみ会館

京都市南区西九条川原城町110
☎ 075(661)3993
<https://kyoto-minamikaikan.jp/>
@minamikaikan

〈大阪〉 2/26 (土) より

國友勇吾監督来場予定
詳細は公式サイトまで

阪急・梅田駅より電車で5分/十三駅下車西口より3分
第七藝術劇場

大阪市淀川区十三本町1-7-27サンボードシティ6F
☎ 06-6302-2073
www.nanagei.com 7_gei